



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア: マディーナ近郊でのフランス人射殺事件 (2月27日 - 28日付現地紙)

1. トルキー内務省報道官の発表：
 - (1) 2月26日、男性4名、女性3名及び子供2名のサウジ在住フランス人グループが正体不明の車両から銃撃されたとの情報が当局に報告された。同報告を受けて当局が確認したところ、男性2名が即死、男性2名が負傷し、そのうち1名は搬送先の病院で死亡、残る1名は病院で手当を受けていることが判明した。現場にいた女性3名と子供2名はマディーナに搬送された。
 - (2) 襲撃事件は、マディーナ・タブーク高速道路から17キロメートル離れた砂漠の地点で、フランス人グループが休息を取っていた時に発生した。
2. 「リヤド」紙筋の情報
 - (1) 被害者のフランス人グループは、他の観光客と共にタブーク州と周辺の遺跡ツアーに参加していた。ツアー終了後、ツアー客の17名はリヤドに向かったが、今回襲撃されたフランス人グループはウムラを行うためにマディーナとマッカに向かう途中で、休息のために砂漠域内で車を停めたところ、別の車で接近した武装グループが彼らに国籍を質問し、フランス人と応答した後に、車内から発砲した。
 - (2) 犯人グループは3名で、男性と女性を分けて、男性4名に機関銃を発射。即死した2名のうちの1名は子供で、負傷した1名も子供だった。犯行現場は、雨量の少ない乾燥地帯であり、警察は勿論のこと、付近には住民すらいない場所で、携帯電話の電波も届かない場所であった。
3. 「サウジガゼット」紙の報道

一部治安関係者は「本事件は、アルカーイダの手法に似ている」と述べた。又、依然として彼らのスリーパーが、外国人狩りの作戦指示をマディーナ付近で待っていると考えられるので、外国人は注意するべきだと付け加えた。しかし、サウジ内務省筋は、テロとの関連付けは尚早との公式見解である。
4. 「アラブニュース」紙
 - (1) 事件の生存者5名(女性3名、11歳の女兒、15歳の少年)が27日夜、在サウジ仏大使館員らが出迎える中、リヤドに戻った。
 - (2) 在サウジ仏大使館はサウジアラビア滞在中のフランス人に対して、グループでの行動を避けるよう進言した。又、フランス外務省はサウジへの渡航情報を修正した。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799